

道南太平洋海域スケトウダラニュース

平成 19 年度 第 2 号 2007 年 9 月 28 日

北海道立栽培水産試験場 調査研究部 TEL : 0143-22-2327 FAX : 0143-22-7605

平成 19 年度道南太平洋海域におけるスケトウダラ漁況の見通し

道南太平洋海域のスケトウダラ漁況の見通しについてお知らせします。

(内容は、各協議会総会、会議等で報告したものです)

スケトウダラニュースは PDF ファイルとして栽培水産試験場ホームページからもごらんになります。ご利用ください。

<http://www.fishexp.pref.hokkaido.jp/exp/saibai/suketoudara.htm>

資源は減少傾向にあり、来遊資源量(重量)は前年より1割程度減少すると予想されます。漁獲量にすると5~6万トン(全漁業込み)の資源です。

漁獲物は前年同様尾叉長40~45cmの小中型魚の割合が高いでしょう。

計量魚探調査の結果からみて、漁期前半の10、11月の総漁獲量は前年よりやや減少して1.5万トン程度と予想されます。

漁期はじめの漁場は水深250~300mとなるでしょう。

平成19年度以降の情報:平成12年生まれ(2000年級)より後には卓越年級がでていません。現在ある資源をとりすぎないようにして、持続的に利用していく必要があります。

- 1.平成19年度道南海域に4歳魚として新たに加わる平成15年生まれの魚(2003年級群)は、前年度(平成18年度)の4歳(平成14年生まれ:2002年級群)と同程度で多くないと予測されることから、資源量は前年より1割程度減少すると予想されます(図1)。資源は減少傾向にあり、漁獲量にすると5~6万トン(全漁業込み。平成18年度は6.3万トン)の資源です。
- 2.前年同様に5~6歳魚の割合が高いと予想されるので、漁獲物は尾叉長40~45cmの小中型魚の割合が高いでしょう。
- 3.9月に実施された計量魚探調査の結果から、漁期はじめの10~11月の漁獲量は前年よりやや減少して、1.5万トン程度と予想されます(スケトウダラニュース第1号を参照してください)。
- 4.漁獲対象となるスケトウダラ成魚の分布範囲は水深200~400mで、250~300mの密度が高いと推測されます。
- 5.釧路水試が実施している道東海域1歳魚を対象とした計量魚探調査の結果では、平成12年生まれ(2000年級群)以降豊度の高い年級群(卓越年級群)が出現していません。今後も資源の減少傾向が続くと予測されます。現在ある資源をとりすぎないようにして、親魚量を一定以上に維持していく必要があります。
- 6.今年度は、10月下旬、11月下旬、1月中旬に計量魚探調査を予定しています。11月上旬、12月上旬、2月上旬にスケトウダラニュースで、それぞれの調査結果をまとめて直近の分布状況や来遊量お知らせしていく予定です。

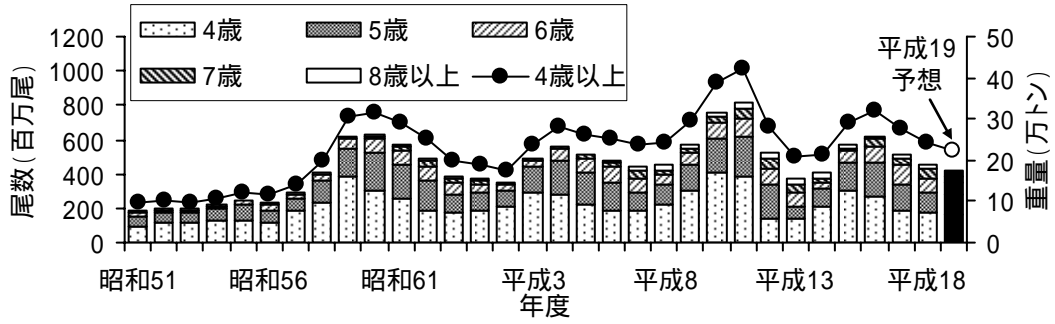
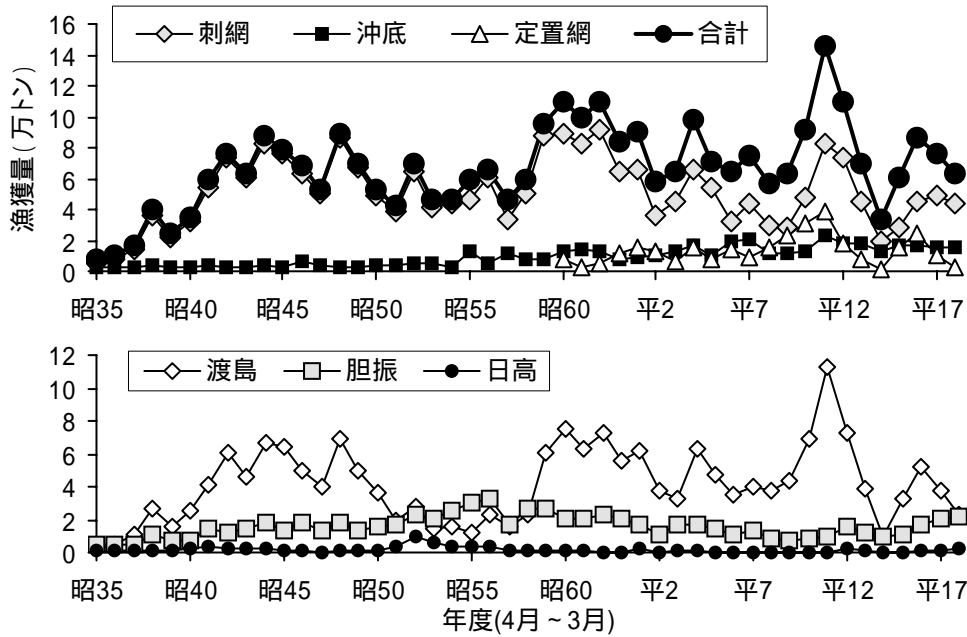
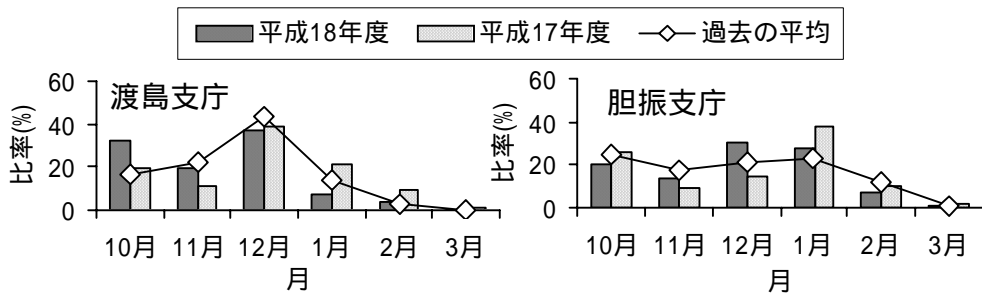


図1. 道南太平洋海域のスケトウダラ資源尾数(棒グラフ)および重量(折れ線グラフ)の経年変化



参考 道南太平洋海域の漁業別(上)支庁別(下、刺し網と定置網)スケトウダラ漁獲量の推移



参考 渡島および胆振支庁の刺し網漁獲量の月別比率

棒グラフ：平成17、18年度、折れ線グラフ(昭和60年~平成11年度の平均)